

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書 平成 30年 6月 20日 愛知県知事 殿 提出者 住 所 愛知県稲沢市小沢二丁目9番18号 氏 名 山一建設株式会社 代表取締役 山 田 哲 也 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0587-32-6125 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	山一建設株式会社 アスファルトプラント工場
事業場の所在地	愛知県稲沢市西島新町72-2
計画期間	平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06 総合建設業
② 事業の規模	平成29年度完工高 8.5億円
③従業員数	33名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	アスファルトコンクリート塊およびコンクリート塊を受け入れて、中間処理リサイクルにより所定の品質規格を満たす再生アスファルト合材および再生路盤材を製造し自社工事に利用するとともに製品を他の業者にも販売をします。(一部製品は、あいくる材の認定を受けています。)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 本社 社長 山田哲也(産業廃棄物処理統括責任者) 指示・管理 ↓ アスファルトプラント工場 工場長 山口博光(産業廃棄物処理責任者) 廃棄物受入・作業指示 ↓ アスファルトプラント工場 作業員 5名 廃棄物分別処理作業実施 廃棄物の受入時には廃棄物の小割をお願いし、受入時に目視確認および異物混入の確認をして受け入れます。 廃棄物は分別をして処理作業を進めています。			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（ 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	アスファルトコンクリート塊	コンクリート塊
	排 出 量	13,450 t	2,730 t
	（これまでに実施した取組） 廃棄物が増加しないように発注者と協議をして工事の施工を進めています。 当社の再生製品を利用してもらうように顧客をお願いをしています。 大きな廃棄物の塊は受け入れを断り、顧客には小割のお願いをしています。 新たな販路拡大に努めています。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	アスファルトコンクリート塊	コンクリート塊
	排 出 量	14,000 t	2,500 t
	（今後実施する予定の取組） 当社の再生製品の販売促進のため顧客へのPRをします。 再生製品の販売促進により、廃棄物の残量を減らすようにします。 当社の再生製品を常に出荷できるように品質確認・製造管理をいたします。 顧客のニーズに対応できる再生製品を製造します。 環境に配慮した製造をします。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 小割をお願いして廃棄物を受け入れ、アスファルトコンクリート塊とコンクリート塊が混在しないように分別しています。 小割ができていない廃材は、受け取り拒否をします。		
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 搬出業者と協議をして大きな塊の受入はお断りを強化するとともに、異物混入の有無をしっかりと確認して分別を行います。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	アスファルトコンクリート塊	コンクリート塊
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	13,450 t	2,700 t
	（これまでに実施した取組） 顧客へのPR等により当社再生製品の販売促進をしていますが、廃棄物の残量が思うように減っていません。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	アスファルトコンクリート塊	コンクリート塊
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	14,000 t	2,500 t
	（今後実施する予定の取組） 当社の再生製品のPRをさらに行って、当社製品の出荷量を増やして廃棄物の残量を減らしたいと思います。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	アスファルトコンクリート塊	コンクリート塊
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 破砕による処理を行っております。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	アスファルトコンクリート塊	コンクリート塊
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 当社の再生製品の販売促進を行って製品の出荷量を増やします。 常に製造工程・製品の品質を考慮しながら処理作業を進めます。 熱回収による処理工程はありません。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 埋立の実績はありません。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 廃棄物を直接埋め立てることはありません。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	アスファルトコンクリート塊	コンクリート塊
	全 処 理 委 託 量	0 t	30 t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	0 t	30 t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 委託業者の再生材料等を搬入し、帰りの便で廃棄物の処理委託をお願いする場合があります。		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	アスファルトコンクリート塊	コンクリート塊
	全 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 基本的に委託処理をお願いする計画はありません。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。